

平成17年10月17日
水産庁

2005年度第二期北西太平洋鯨類捕獲調査（JARPN II）
沿岸域調査（釧路沖鯨類捕獲調査）の終了について

本年度の第二期北西太平洋鯨類捕獲調査（JARPN II）の沿岸域調査（釧路沖）が、10月12日（水）に終了しましたので、その成果概要について報告します。

調査期間：9月7日（水）～10月12日（水）

調査実施主体：（独）水産総合研究センター遠洋水産研究所
（財）日本鯨類研究所

捕獲頭数：ミンククジラ60頭（サンプル数の上限）

主な発見鯨類：ミンククジラ、ツチクジラ、シャチ他

調査団：加藤秀弘東京海洋大学教授以下16名
調査船を含む乗組員・事業員数は55名

- （1）9月は天候不良により調査が難航したが、10月には調査海域への来遊頭数が増加し、昨年との調査と比較すると良好な条件となった。結果的には、過去2年とは異なる状況下で、ミンククジラ生態の年変動に関する情報が得られた。
- （2）ミンククジラの捕獲調査船による総発見数は147群148頭であった。分布状況については、9月は昨年同様、2002年に見られた沿岸の集中域が見られず、近海から沖合（7～30マイル付近）にかけて薄く広がっていたが、10月に入って近海域への来遊が増加した。
- （3）本年度は、調査海域内のカタクチイワシ、サンマ等の主要餌生物の分布が薄く、ミンククジラの沿岸域への来遊が少なかったものと推測される。
- （4）胃内容物は、オキアミ、スケトウダラ、カタクチイワシ等多彩であったが、例年とは異なり、10月に入ってもサンマが卓越することはなかった。
- （5）今後も本海域及び春の三陸沖における調査研究を継続し、ミンククジラの摂餌回遊生態および、その捕食が漁業に与える影響の解明に向けて分析を進めていく予定である。また、調査成果は来年の第58回国際捕鯨委員会（IWC）科学委員会に発表予定となっている。

問合先：水産庁遠洋課捕鯨班 諸貫、大部、中村
代表:03(3502)8111 内線7242・7243
直通:03(3502)2443
<http://www.jfa.maff.go.jp/whale/indexjp.htm>

